

資料 3 シラーの詩「歓喜に寄す」(シラーオリジナル/第4詩節まで) 対訳表

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum!
Deine Zauber binden wieder
Was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt .

Seid umschlungen, Millionen! (*1)
Diesen Kuss der ganzen Welt! (*2)
Brüder—überm Sternenzelt
Muss ein lieber Vater wohnen!

Wem der grosse Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein!
Ja, wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund!
Und wer's nie gekonnt, der stehle
Weinend sich aus diesem Bund.

Was den grossen Ring bewohnt,
Huldige der Sympathie!
Zu den Sternen leitet sie
Wo der Unbekannte thronet.

Freude trinken alle Wesen (*3)
An den Brüsten der Natur;
Alle Guten, alle Bösen (*4)
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben, (*5, *6)
Einen Freund, geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben, (*7, *8)
Und der Cherub steht vor Gott. (*9)

Ihr stürzt nieder, Millionen? (*10)
Ahnest du den Schöpfer, Welt?
Such' ihn überm Sternenzelt!
Über Sternen muss er wohnen.

Freude heisst die starke Feder
In der ewigen Natur.
Freude, Freude treibt die Räder
In der grossen Weltuhr.
Blumen lockt sie aus Keimen,
Sonne aus dem Firmament.
Sphären rollt sie in den Raumen,
Die des Sehers Rohr nicht kennt.

Froh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan, (*11)
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

喜びよ、美しい神々の火花よ、
楽園生まれの娘、うら若き使者よ、
神々しい人よ、我らの魂、感動に燃えて
あなたの聖域に踏み入る。
あなたは不思議な力の持ち主、時代の潮流が
残酷に切り裂いたものを、再び結びあわす。
あなたの翼が温かく人を包み込むところで
すべての人間は、兄弟となる。

抱かれてあれ、幾百万の人々よ、
天地一杯の、この口づけを受けてあれ!
兄弟たちよ——あの星空の天涯のかなた
慕わしい父さまはきっとおわす。

一人の友の友となる
この大事業に成功したものは、
情(こころ)こまやかな妻を勝ち得たものは、
その歓呼の声を、共に挙げるがよい、
くだ、この地上にあってたった一人の魂でも
自分のものだと言えるものは——。
そして、それができなかつた者は、涙ながらに
その結合の輪から立ち去るがよい。

この大球体(地球)を住み家とするものは、
共感の育みに心を尽くせ。
共感こそは、私たちを星空に導く、
あの未知なるおん方の君臨するところへ。

ありとあるすべての存在は
その本性という乳房から喜びを享受する。
いかなる善人も、いかなる悪人も、みな
それぞれのバラの香跡を追い求める。
その香跡はわれわれに、口付けや葡萄の木
そして刎頸の友を与えてくれた。
快楽は虫(肉的存在)に与えられたものだ。
そしていま天使ケルプは神の前に立っている。

跪いているか、幾百万の人々よ、
そのアンテナで創造主を捉えているか、世界、
かのおん方を求め、星空の天涯のかなたを
星空のかなたにおん方はかならずおられる。

喜びとは、永劫の自然の中の
強いパネのこと。
喜びこそ、喜びこそは、偉大な世界時計の
歯車を動かすもの。
蕾から花を誘いだし、
天空より恒星たちを誘い出す。
天文学者の望遠鏡さえ観測できない
宇宙のもろもろの天体を動かす力。

嬉嬉として、あたかもかの恒星たちが
壮麗なる天意の法のままに飛翔するごとく
飛ぶは、君たちは君たちの道を歩むがよい
喜びに満ちて、就ち勝利に向かう英雄の如く、